

## 高齢者の就労について

NPO 法人高齢社会をよくする女性の会理事 柳原智子

平均寿命が延びるとともに、元気な高齢者が増加しています。私自身、70歳で地方の大学教員を退職し暇を持て余していました。朝からテレビ欄をチェックし、お気に入りの番組を録画し見ている生活が続き、あっという間に日が一椅子に腰を掛けたテレビっ子になっていました。足腰が弱り、一歩踏み出すのがしんどい状態になり、何とかしなければと考え、体を動かさず働き口を見つければ小遣い銭くらいの収入を得ながら運動不足解消にもなると考え、早速ネットで就職先を検索しました。

ありました、わが家から電車で15分、そして上野の森の奥まで散歩よろしくたどりつける静かな環境の職場を見つけたのです。上野にある博物館に併設された有名ホテルのレストランが人材を募集中でした。早速にネットから、年齢他詳細を書き込み申し込みを完了し送信しました。翌日、早速にそのレストランの担当者から連絡がありました。「65歳以上の採用は受け付けておりません。」の一言でした。募集要項には「年齢は問いません。」だったはずでしたのに。

しばらくして、近所にある大手ファミレスチェーン店の募集広告を見つけました。この広告は、年配の男女がファミレスの制服を着て微笑んでいる大きな広告で以前からあったのですが全く気が付かずにおりました。町会の役員会でよく会議の後、皆さんと夕食に利用をしていた店だったし、そこで働こうという考えがなかったから目に入らなかったのも当然かもしれません。ここなら、わが家から5分もかからず近いし、家においてテレビを見ている生活よりは運動不足解消になるかもしれない。そう思っただけで店に出かけました。

対応した店長は、私が勤めたいと申し出るとびっくりした様子でしたが、翌日来てくださいという返事をいただき帰宅しました。これは脈ありと喜んで早速翌日出かけ、採用の手続きをしました。驚いたことにその書類には、私の年齢を59歳と記入するよう言われたのです。71歳ではいけないようです。上野の博物館にあったレストラン同様、どうも世間では65歳以上は就職が難しいようです。59歳を記入したことで、雇用者の店長さんが私を若く見て下さったことに気をよくして、早速採用手続きを済ませ働きはじめました。

店内で働く人員は、店長夫妻（社員）と厨房で食材を調理するアルバイトが数人と店内でお客様の注文を聞き運ぶフロアアルバイトが7名くらいおりローテーションで仕事をしていました。つまり、店長夫妻以外は非正規雇用という状況です。

初日に出かけてびっくりしたのは、入口に迷ったことでした。当然開店時間前に到着したのですが、入口はお客様が利用する入口しか見当たりません。入口のガラス戸は閉まっており途方に暮れていると、入社したアルバイトのベテラン女性が入店の方法を教えてくださいました。社員用の入口はなく一か所のため店に電話をかけ早番のアルバイトの方に開けてもらうとのことでした。入り口を開錠してくれたのは、私と一緒に厨房で働くことになっているベテラン女性の方でした。実は私は入店の方法などを教えてもらっていませんでした。このファミレスはベテランのアルバイトの方が中心になって仕事を回しており、新米の教育などは普通の企業に比較すると十分ではないようです。

店長が私に、朝食メニューを作る補助作業と皿洗いという仕事の内容を簡単に説明してくれたのですが、一緒に働く女性のベテランアルバイトさんは一切口を聞いてはくれず、初日は3時間くらいとはいえ針の筵でした。私の就業時間は週1,2回3時間くらい。一日中立ちっぱなしの作業ですから、運動不足解消どころか、初日は帰宅するや足をソファに投げ出ししばらくは動けない状態でした。メニューに応じた食器の名前や食材の場所を覚え調理者のサポートは勿論、皿などの準備、その合間に使い終わった食器の洗浄、殺菌を暑い厨房の中で水を飲みながら、ほとんど休むことなくこなさなければなりません。かなり体力のいる仕事で、やはり慣れなければ高齢者には難しい仕事のようにも思いました。また、働くアルバイトの皆さんは、非正規雇用でこの仕事で生計を立てているのでしょうか。新米ではありますが、私のような仕事経験があり年齢がいったアルバイトが入ると警戒するのでしょうか。一部の人の中にはかなり意地悪な人もいました。物の場所を確認しても「あっち」といって方向も示さず、広い厨房を見渡し焦ることもありました。当初、朝食づくりのサポートと聞いて、料理好きの私は喜んだのですが、調理担当の女性アルバイトさんは絶対に仕事を譲りませんでしたし、辞めるまで挨拶もしてくれませんでした。ある時は、時間より30分早く出社したところ、「時間の管理が出来ないような人は来ないでほしい」と怒られました。遅れて注意を受けるならまだしも、30分早く出社したからといってその分を請求するわけではないのにとこの時ばかりは理不尽な物言いに腹立たしく思いました。大釜でお米を炊き蒸らす時間が気になって蓋を取ると怒られ、牛肉と合いびき肉のハンバーグを準備する時などはなかなか見分けがつかず左右の手に持ちながらヒヤヒヤものでしたし、暗い冷蔵庫の食材を準備するにも、薬物など暗くて見分けがつかずうろろするばかりでした。食材の軽量と小分け、時にはビニール袋の口締めを家早く綺麗に処理する方法も自宅で練習しました。

3か月くらいすると、私も厨房の方も仕事に慣れて親しみを感じるようになりましたが、忙しいこともあり殆ど仕事の指示以外の口を聞くこともなく過ごしました。このアルバイトはコロナのせいもあり、私は一年足らずで辞めてしまいましたが、かなりハードワークのお陰で足腰は十分鍛えられ、今迄には全くなかった苦い人間関係の複雑さも経験をしたように思います。若い世代も非正規雇用という悪条件の中で必死に自分の仕事を守っているように見えました。

今から一年前の74歳、同年齢の高齢者がこれからどう生きていくのか、そして元気に働くことが出来るのか、そんな興味を持っている折、私の住む葛飾区の区報で「シルバー人材センター」の説明会の情報を目にするようになりました。早速申し込み、説明会に足を運んでみることにしました。コロナ禍の中の説明会ということで通常の半分の参加者での開催でしたがとても興味深いものがありました。地域在住の60歳以上の高齢者であれば登録料2000円を支払えば入会できること、仕事の内容、就労時間も高齢者に合わせ負担の無い範囲での内容でした。地域にある施設の事務管理をはじめ、自転車置き場の整理や、学童の交通案内、襖貼り、植木の手入れ、着物の着付けなど、仕事の内容はそれぞれの地域のシルバー人材センターの受注内容によって異なっていると思いますが、今迄の経験や技術を生かしたものがあります。私は取り敢えず登録をして帰りました。

そして、登録後一か月、近所にある区の施設「堀切憩い交流館」の管理の仕事を依頼され一年半が過ぎました。シルバー人材センターでは事務的な仕事は少ないために登録後一か月で仕事が見つかるのは稀なことのようです。最近、様々な仕事がネットワークされ、パソコン管理が必須になってきたので、高齢の施設管理者の中には、パソコンが出来ずに仕事を辞めざるをえない方増えてきたようでした。私はパソコンが出来たお陰で仕事を得ることが出来たのです。

仕事してみると、施設利用者の対応は勿論ですが、パソコンの操作は文字などの入力や計算というより管理ソフトを使いこなすことが必要だということが分かりました。施設利用者からの申し込み詳細が分かるように、利用日から人数、目的などのデータを入力し、区の施設の利用日がバッティングしないよう、またこの施設からも利用状況がわかるようネットワークされています。紙の資料もまだまだありますが、やはりこれからの社会は紙を減らし、効率よく仕事が出来方向に進んでいくのは間違い

がありません。どんなに、丁寧に接客出来て、達筆な資料作成が出来てもパソコンの操作ができないと仕事を失うこととなります。高齢者といえども、恐れずに ICT 関連にチャレンジしてほしいものです。

葛飾区のシルバー人材センターの登録者の状況は会員数 2919 人、女性の割合は 31%、年間就業率 66.3%です (2023、2 月現在)。なお、葛飾区は東京では一番の受注率と聞いています。会員の拡充を目的に PR 活動の強化、参加しやすい入会説明会の開催、女性会員の入会や活動の促進を掲げており、最重要の就業の促進 (就業機会の拡大) のみだけでなく、会員同士の交流会など持続可能な SDGs の視点も視野に入れた取り組みが企画されています。ただ一人さみしく自宅で過ごすのではなく、こうした取り組みのある組織に入会し、仲間との交流を楽しみながら働く機会があれば孤独の解消にもなるはずだと思っています。

就労の形態はあくまでも会員は個人事業主となり、シルバー人材センターからの委託を受けて仕事をすることになります。

高齢だからと言って人に頼ることなく、責任ある仕事をする事は、これからの高齢社会にとっては健康面からも大いに歓迎すべきことだと思います。とは言っても、若者とは違って頭やからだの機能の衰えは否めません。実際に、問題点はないのか、あるいは高齢者であるためのメリットはあるのか、実際の現場からの声を集めてみました。

まず、入会者の平均年齢は、15、6 年前は 60 代が多数を占めていましたが、現在は 75 歳と高くなっています。働くうえで年齢は重要ですが、個人差もかなりあるようです。もともと「シルバー人材センター」のイメージが高齢男性の職場というイメージが定着しているようで女性の入会者が圧倒的に少ないといえます。そういう意味からも女性の入会者を増やすという取り組みにも力を入れていきたい考えのようです。よく見かける学童の交通案内は当初は女性たちが担っていたこともありますので、PR が必要なのかもしれません。女性は自分から入会を考えるというより、友人に声をかけられて一緒に入会するというパターンも多いようです。実際に、家庭の草取りをする仕事 (除草グループ) も出来活躍しているとのこと。女性は群れて仕事をするのが好きなのかもしれません。

高齢者にとって、耳が遠くなる、反応が遅い、体の動きが緩慢になるなど、年齢による衰えは如何ともしがたいのですが、利用者にとっても本人にとってもそれは不幸なことで、時には仕事にも甘えが出て利用者から厳しい意見が寄せられることもあるようです。特に公共施設関連の仕事をしている場合には、役所の人間同様としてみられていることが多く、区民の目は厳しいということでした。制服を着用してコンビニに入って買い物をしているなどという苦情もあるようで、例え、それが仕事以外の時間でもさぼっているとみられる話もありました。また、子どもの交通指導に当たるときなどは、子どもが幼いために交通ルールを守らず言うことを聞かないと叱り飛ばし、父兄から苦情が出たりする例もあるようです。しかし、自分はいくまでも正論を教えているのだと、子どもに歩み寄る事の出来ない頑なな高齢の就労者がいるのも事実です。高齢者事故が気になりますが、仕事の途中の自転車事故も多いようです。縁石に乗り上げて転倒する。植栽の作業中に脚立の組み立てを十分にせず落下する、また、面倒だからと言って手順を端折って怪我など、ご自分の体の衰えを意識せずに手抜きし、単純なミスにより怪我をする例が報告されています。

最近の入会の動機として一番に上がってくるのは経済的理由が多く、全国的な傾向といえます。シルバー人材センターでは、収入は孫の小遣い銭くらいで、生きがいや、社会とのつながりを目的にしていたものの、最近ではアパートの家賃の足しになどという理由もあるようです。しかし、生活費を賄うほどの収入は得られませんので、その場合にはハローワークへの紹介となります。しかし、実際にハローワークで高齢者が仕事を見つけるのは至難の業といえます。シルバー人材センターの存在は、就労希望の高齢者にとっては有難い存在ではありますが、甘えず、体力を持続し、健康的な働き方をしないと、今の時代、社会から厳しい評価が下されるということも肝に銘じておかなければならないと思いました。

